

1、S・ダーデレン「米国はドイツを代理戦争に急ぎ立てている」

ドイツと米がウクライナへの戦車供与を決めたことに、ドイツ左翼党の連邦議会議員が「歴史的な誤り」と批判。米国はドイツをロシアとの代理戦争に無理やり押し込もうとしており、米国の進歩勢力が、そういうバイデン路線を支持しているのは大きな問題だと強調している。米独立系メディア「デモクラシー・ナウ」のインタビュー。ドイツ通信社（DPA）の世論調査では43%のドイツ国民がレオパルト2を提供することに反対している。賛成は39%に過ぎない。

2、U・コージン「ドイツ外相が公然と対ロシア戦争を宣言」

ドイツのベアボック外相は1月24日、欧州評議会での演説で「我々はロシアと戦争をしている」と発言した。ロシアは反発し、ドイツや米から提供される戦車が使用する劣化ウラン弾を「汚い核爆弾」の使用とみなすと警告した。

3、山崎圭一「ブラジル連邦議会等への襲撃事件をどう見るか」

極右のボルソナロ前大統領の支持者たちが起こした襲撃（1月8日）。衝撃的な事件の経過からブラジル社会と政治、国民意識の実相を観察している。

4、独立200周年に向かって団結～ポリビア多民族国の14年

「母なる大地」との共生、多民族の融和を規定する新憲法のもとで新しい国作りの現状とこれまでの歩みを、14周年にあたって政府が発表した基本文書が解説。

5、ダビド・チョケワンカ「世界の均衡を求めて」

ハバナで1月下旬に開かれた「プログレッシブ・インターナショナル」の国際会議でのボリビア副大統領の演説。植民地主義の搾取と抑圧に抵抗を続ける先住民の叡智が、不均衡と分断主義の世界を截る。

6、ベネズエラ国民の社会的保障のための第2次部分合意

昨年11月、メキシコ市で行われたベネズエラ政府と野党との「対話・交渉テーブル」で合意された国民福祉分野の合意内容。